

用水路における個人レベルの駆除

大和郡山市在住 中村 聡一

農業用ため池などの比較的小さく、水抜きが容易である水系における外来魚駆除は物理的に確実に行うことが期待できる。逆に、広い水系や網の目のように張り巡らされた水系における駆除は、現時点の技術水準では確実な駆除は不可能であると言わざるを得ない。しかしながら、未来に残すべきものを考えるとき在来の生態系に害しか及ぼさない生態的特性を持つオオクチバス、ブルーギルなどの肉食性・雑食性の外来魚は、たとえ少しずつであろうとも、また、非効率であろうとも生態系から取り除かれ続けなければならない。外来魚駆除については全国で様々な機関がそれぞれの対象の水域について今現在とりうる最善の手法をもってその実行に当たっている。琵琶湖周辺においても大小様々な外来魚駆除の催しが開かれ、多数の参加がある。

筆者の在住する奈良県においてはため池が多く存在するものの大々的な外来魚駆除は少なく、水抜きに伴い有志が行うようなものがあるに過ぎない。

今回の駆除活動は、筆者のホームグラウンドである大和川水系の佐保川の秋篠川合流点付近（奈良県大和郡山市）では堰堤があるためか外来魚がみられないにもかかわらず、佐保川に流れ込む用水路においてオオクチバスを目撃したことから始まった。その用水路の下流は落差のある水門で佐保川に通じていて下流からの水生生物の移動は不可能であるし、上流側に大きなため池も存在せず、農閑期でも水深が確保されるのは今回の採集場所である幅1～2mの長さ約100mの範囲に限定される。ここには50cmを超えるコイをはじめギンブナ、モツゴ、タモロコ、ヨシノボリが多数生息している。ここに2006年11月に20cm級のオオクチバス数尾を目撃したので、スジエビおよびアメリカザリガニを餌として釣りによって駆除することを試みた。

現在までの駆除状況は、2006年11月に体長190～195mmのオオクチバスを4尾、2007年11月に208、224mmの2尾、計6尾である。水路の水が濁っていて確認できていないがまだ釣り落とした個体があるので駆除は完了していない。